

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(菊池市)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	菊池市	大字斑蛇口字穴川	穴川夜神楽		菊池市無形民俗文化財 昭和49年6月28日	1月5日	穴川菅原神社	家内安全・五穀豊穡を祈ったもので、穴川菅原神社で夜に奉納される。【2001】 《演目および構成》榊の舞(4人舞)、みてぐらの舞(4人舞)、二剣の舞(2人舞)、四剣の舞(4人舞)、弓の舞(2人舞)、剣弓(2人舞)、ねり(4人舞)、歌神楽(1人舞)、奉剣(1人舞)、鬼人さん(2人舞)。【1991】 終盤の鬼神の舞では、無病息災のお守りとなる御幣をめぐって、鬼神と観客が激しい争奪を繰り広げる。【2013.1.7熊日】	【伝統芸能】 神楽	穴川夜神楽保存会		
2	菊池市	大字四町分岩下	岩下神楽	いわしたかぐら	菊池市無形民俗文化財 昭和49年6月28日	3月13日 9月13日 9月14日 10月27日 11月25日	四ノ宮神社選宮祭 四ノ宮神社 四町分菅原神社 水源よかばい祭 岩下菅原神社	年3回ほど菅原神社等の例祭で奉納されている。【2001】 《演目および構成》榊舞(2人舞)、持幣舞(2人舞)、参舞(1人舞)、弓の舞(2人舞)、四剣舞(4人舞)、唄舞(2人舞)、問ひ舞(2人舞)、弓剣舞(2人舞)。【1991】	【伝統芸能】 神楽	岩下神楽保存会		
3	菊池市	稗方	稗方神楽		菊池市無形民俗文化財 昭和49年6月28日	1月4日 12月21日 4月5日 10月15日	稗方菅原神社 稗方菅原神社 菊池神社 菊池神社	年に2回ほど実施されており、約130年前から続けられている。【2001】 《演目および構成》奉剣(1人舞)、榊(2人舞)、参(1人舞)、御幣(2人舞)、四剣(4人舞)、地面(1人舞)。[中絶曲:弓剣、弓、歌神楽、二天]【1991】	【伝統芸能】 神楽			
4	菊池市	下出田、植古閑	出田の獅子舞	いでたのししまい	菊池市無形民俗文化財 昭和56年3月30日	11月25日	若宮神社	獅子舞は下出田・植木閑区の氏子により奉納されている。【2001】 《構成》獅子2頭(ともに2人立)、提灯2人、拍子木1人、笛12人、太鼓3人。《特色》2頭の獅子が楽に合わせて、社殿のまわりを右回り3回廻ったあと神前で奉納する。【1991】		菊池市文化財係 0968-24-1101		
5	菊池市	赤星	赤星天満宮神楽	あかほしてんまんぐうかぐら	菊池市無形民俗文化財 平成2年9月1日	1月1日 3月27日 5月8日 8月6日 11月14日 11月29日	初舞 今宮神楽殿 菊池神社例祭奉納 七城町ホテル祭り 將軍木サマーライブ アップコンサート 戸崎よいとこ祭り 赤星菅原神社祭	今宮神楽殿で年4回程奉納されている。【2001】	【伝統芸能】 神楽	菊池市文化財係 0968-24-1101		
6	菊池市	玉祥寺	このみやおどり	このみやおどり	菊池市無形民俗文化財 平成2年9月1日	2月27日	玉祥寺春日神社	女装した男衆2人が五穀豊穡などを願い、太鼓をたたきながら踊る「このみやおどり」が27日夜、菊池市玉祥寺の春日神社で奉納された。約560年続くという伝統行事。【2012.2.29熊日】 春日神社祭の前日「口あけ」の夜に豊作を祈願して、拝殿内で行われる。【2001】 《特色》拝殿の正面にドテラに荒縄の帯、腰に種籾入りの袋を下げ、堅杵を背負った御大将が2人座り、その横に村人が並ぶ。その前で女装した男の踊り子が2人が、サンガシラ(節頭)の歌に合わせて踊る。かつては氏子の各家を回っていたという。【1991】				五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
7	菊池市	(旧旭志村)弁利:岩本地区	岩本神楽	いわもとかぐら	旭志村無形民俗文化財 昭和57年4月1日	7月25日 11月25日 12月15日	岩本首原神社 岩本首原神社 卷天神	若手が8～10年交代で「神楽連」を組織し、140年にわたり継承してきた。9年ぶりに代替わりした新メンバー8人がデビューした。1871年、村民の幸せを祈願し、氏子ら16人で初代神楽連を結成したのが始まり。8～10年間は同じメンバーで年3回、地元の祭りなどで奉納し、交代の時期になると先輩や現役が若手を誘って技を引き継ぐ。新メンバーは18代目。昨年12月につくられた継承委員会や17代目の指導で今年2月からほぼ毎晩、練習を積んできた。お披露目では、古くなった剣や鈴、烏帽子も新調し、住民らが見守る中、全8座を3時間かけて奉納した。【2012.4.4熊日】 肥後神楽系に属する神楽。神社に伝わる由来記によると、明治4年9月25日、岩本敬神者集まり、村民の幸福と豊かな生活を祈願するために氏子にて神楽奉納の儀を決め、講師として迫間「お七つぼ」の社人、神崎薩摩守、駿河守並びに北宮神社宮司方の協力を得て、第一代目神楽連16名の奉納者を得て結成されました。神楽は、笛太鼓の曲に辨舞、幣舞、米舞、弓剣舞、弓舞、剣舞、歌舞、地回舞の八座であり、鬼神舞、サハ舞等も習得されていたが現在は八座のみ継承されています。構成は、太鼓2人、笛2人、舞人6人です。奉納:夏祭り(7月25日)、秋祭り(11月25日)、岩本天神祭り(12月15日)【菊池市HP/2005】 菅原神社に伝承されている肥後神楽【2001】 《演目》辨舞、幣舞、米舞、弓剣舞、弓舞、剣舞、歌舞、地回舞。 《沿革》明治4年、菊池市迫間から習ったという。【1991】	【伝統芸能】神楽	保存会	菊池市文化財係 0968-24-1101	
8	菊池市	(旧旭志村)大字麓:湯舟地区	湯舟神楽	ゆぶねかぐら	旭志村無形民俗文化財 昭和52年4月1日	1月21日 9月1日 10月9日 11月21日	湯舟矢護神社	約40年前に神楽を受け継いだ地元の古参6人が伝統を守ってきたが、この日から若手8人に世代交代した。湯舟神楽は旧旭志村の3か所に残る神楽の一つで、1878年に始まったという。最年長の6人は約40年前から舞い続けてきたが、その後は後継者が見つからず、高齢化しつつあった。昨秋、呼び掛けに応じた22～37歳の8人が「地区の伝統を終わらせてはいけない」と決意。仕事を抱えながら週1回、舞いや笛、太鼓を練習してきた。祭りでは8座あるうちの5座を奉納。矢護神社では昨秋、烏居も新調され、湯舟地区には新たな船出となった。【2014.1.22熊日】 湯舟地区、矢護神社に伝わる神事であり、由来記によると、明治11年11月熊本県令、富岡敬明の許可を受け、中窪田祠堂 中尾時親、合志郡竹迫の日吉神社祠官 小森田堅磐の両氏の指導により継承されたものです。神楽は合志神楽に属し、奉剣、次剣、芝、御幣、和弓、四剣、神撰歌、地鎮の八座からなり、構成は太鼓1人、笛1人、舞手8人です。奉納:初祭り(1月21日)、八朔の節句(9月1日)、水道祭り(10月9日)、秋祭り(11月21日)【菊池市HP/2005】 矢護神社に伝わる神事で合志神楽に属する。【2001】 《演目および構成》奉剣(1人舞)、次剣(2人舞)、芝(2人舞)、御幣(2人舞)、和弓(2人舞)、四剣(4人舞)、神撰歌(1人舞)、地鎮(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】神楽	区長	菊池市文化財係 0968-24-1101	
9	菊池市	(旧旭志村)川辺川辺地区	川辺神楽	かわべかぐら	旭志村無形民俗文化財 昭和62年4月1日	1月5日 11月3日	川辺熊野座神社	由来記によると、「慶応4年 祭主山辺伊豆守宇治惟繼、同山辺正直宇治惟輝のもと祭執行仕候」とあり、明治24年2月1100年大祭に当たり、神官安武種雄により神楽奉納の儀を決め施行されました。神楽は合志神楽に属し、奉剣、次剣、芝、御幣、和弓、四剣、神撰歌、地鎮の八座からなり、構成は太鼓2人、笛2人、舞手6人です。【菊池市HP/2005】 熊野座神社に伝わる神事で、地区秋例大祭、コスモス祭り等に参加している。【2001】 《演目および構成》奉剣(1人舞)、次剣(2人舞)、芝(2人舞)、御幣(2人舞)、和弓(2人舞)、四剣(4人舞)、神撰歌(1人舞)、地鎮(1人舞)。【1991】	【伝統芸能】神楽			
10	菊池市		菊池雲上太鼓			4月1日 8月6日 10月15日	菊池市内	菊池一族の出陣太鼓をイメージして新しく作られたものである。【1991】				
11	菊池市		菊池竜踊り			4月1日 8月7日 10月15日	菊池市内	雄雌2頭の竜が曲玉に戯れるもので、昭和39年に始められた。【1991】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
12	菊池市	菊池市限府上町	菊池の松囃子	きくちのまつばやし	国指定無形民俗文化財平成10年12月16日	10月13日	松囃子能場	松囃子は、室町時代にさかんにおこなわれた正月をことほぐ芸能で、室町幕府において、初めにその本芸の「松囃子」の祝言の曲を演じたあと、余興に能を演じる形式が生まれた。菊池の松囃子は、室町時代のもものと類似し、初めに「開口(セリフとも称した)」と言われ狭義の「松囃子」を演じ、そのあと「老松」以下の能(現在は仕舞)と狂言を演じる。菊池の「松囃子」は、①祝言のセリフ、②大鼓と太鼓と地謡の囃子による笛を持つての舞、③太鼓と地謡の囃子による扇の舞、の3段からなる。この第三段の「春の色は東よりなびきおさまりぬ」以下の詞章は、室町幕府の松囃子をつとめた観世の「松囃子」と共通するところがあり、深い関連が考えられる。【熊本県ありのままHP2005】 《演目》勢利婦(狭義にはこれを松囃子という)、老松、狂言、仕舞、祝言。《沿革》南北朝時代、征西將軍懐良親王を迎えた菊池武光公が正月を奉ぐため1月2日に始めたのが始まりという。後に7月15日に演じられるようになったが、明治3年、菊池神社創建以来、現在の日程になっている。【1991】		御松囃子御能保存会		
13	菊池市	七城町加恵	道楽	みちがく		8月		ぼんてん踊り、笠踊り、花つみ踊り、五条の橋(毎年踊りの内容が変わる)【1991】			菊池市文化財係 0968-24-1101	
14	菊池市	七城町	天守太鼓	てんしゅたいこ		8月13日 11月3日	七城町堂グランド 七城町中央公民館	昭和63年に始められた芸能で、豊作祈願太鼓、出陣の演目がある。【1991】		保存会	菊池市文化財係 0968-24-1101	
15	菊池市	泗水町大字住吉	住吉日吉神社雨乞い太鼓	すみよしじんじやあまごいたいこ	泗水町指定無形民俗文化財	7月22日 土用の入りから3日間	住吉日吉神社	《特色》直径100センチの太鼓をオオバチ、コバチが取り囲み打ち鳴らす。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
16	菊池市	泗水町住吉	住吉日吉神楽			12月18日	住吉日吉神社	《演目および構成》奉剣(1人舞)、次剣(2人舞)、櫛(2人舞)、御幣(2人舞)、弓(2人舞)、四剣(4人舞)、神宣歌(1人舞)、実印(1人舞)。 《特色》明治39年に始めたという。このとき、旭志村湯舟から指導を受けたという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
17	菊池市	泗水町福本	福本八幡宮獅子舞	ふくもとはちまんぐうし しまい		10月18日	福本八幡宮	《演目》十せん寺、道楽、花傘踊り。《構成》獅子二頭(2人立ち)チャルメラ、笛、大太鼓、小太鼓、花笠踊り踊り手50人。【1991】		区長	泗水町総合支所 0968-38-2111	
18	菊池市	泗水町田島	田島菅原神社神楽			2月25日 12月5日	田島菅原神社	《演目および構成》さんざ(1人舞)、二剣(2人舞)、四剣(4人舞)、奉剣(1人舞)、櫛(2人舞)、弓(4人舞)、国津(2人舞)、神撰歌(2人舞)。《沿革》明治の初めに神楽を始めたというが、このときの神楽は姫神楽と呼ばれる静かな神楽だったという。現在の神楽は、昭和の始めに高橋稲荷(熊本市)から習ったものだという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
19	菊池市	七城町清水	阿蘇神楽			10月18日	清水若宮神社	《演目および構成》櫛(2人舞)、幣(2人舞)、四剣(4人舞)、弓(2人舞)、剣弓(2人舞)。[中絶曲:はなよね舞、唄神楽、鬼人舞]【1991】	【伝統芸能】 神楽			
20	菊池市	七城町下橋田	阿蘇神楽			3月13日	下橋田菅原神社	《演目》奉剣、櫛、二剣、御幣、参舞、弓剣、弓、神撰歌、四剣、鬼神、地固。《沿革》明治37～38年頃、鹿本町中川の神官から習ったという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
21	菊池市	七城町高田	阿蘇神楽			10月20日	高田阿蘇神社	《演目》祝詞、参舞、奉剣、御幣、櫛、四剣、弓、神楽歌、剣弓、地固。《沿革》明治37～38年頃、鹿本町中川の神官から習ったという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
22	菊池市	隈府	和太鼓の祭典・鼓振祭り	こしんまつり		3月28日	隈府市民広場	市町村合併後のイベント整理に伴い廃止された和太鼓の祭典「鼓振祭り」が5年ぶりに復活。祭りは旧菊池市で毎年8月、計20回開催。しかし4市町村の合併後、新市は時期や内容が重なるイベントの見直しや統合を進め、補助金を削減。鼓振まつりも2005年を最後に廃止となった。今回、菊池観光協会主催の「菊池さくらまつり」のイベントのひとつとして復活。菊池雲上太鼓には、30～50歳代の大人10人でつくるチームと、後継者として太鼓教室で学ぶ小1～中1の12人で構成する「雲上白龍隊」があり、2組で計6曲を披露。同市から七城天守太鼓も出演。【2010.3.25熊日】		菊池観光協会 TEL0968-25-0513		